

思いやりがつくる“幸せ”な日常



いきいきナイス・パートナー 高橋 正男さんと高橋 照子さん(本町)

結

婚当時、私たちは共働きだったこともあり、洗濯はずっと夫がやっていました。当時は男性が家族の洗濯をするというと「男がするなんて…」と周囲から言われたのですが、夫は、「気にすることはない、男がやってなにが悪いことがある」と言っ

て気にしませんでした。今でも毎日洗濯してくれるんですよ、と照子さん。

正男さんは「私は、小さい頃に母を亡くして、兄弟で助け合いながら育ってきたから、できることをできる人がやるのは当たり前という考えです。ずっと何かしら動き回ってきたから、今でも習慣で続けているだけです」と話します。

照子さんが何か新しいことを始めようとするとき、正男さんはいつも協力的だったそうです。

「特に、2人目の子どもの出産のために仕事を辞めてから、私が婦人会や交通安全母の会などに入って活動しようとする、『人のためになることだから、一生懸命やりなさい』と、力強く背中を押してくれました」。

また、照子さんが、以前、編み物の資格を取って、自宅で編み物教室を開催したときも、正男さんは全面的に協力してくれたのだそう。写真で二人が着ているセーターは、どちらも照子さんの作品です。



「お互いの領域を守って生活するのが大切」と話す正男さん。その考えが家族にも伝わっています。

二人や家族でよく旅行にでかけました。今では気軽に旅行には行けなくなった分、家で過ごす2人の時間を大切にしています。



正男さんは次のように話します。

「人は誰でも、やりたいことがあるわけです。私には私のやりたいこと、妻には妻のやりたいことがあるのです。私は教員をしていましたが、考えるより先に体が動くタイプでした。できる人が率先してできることをやるのが当たり前だと考えていましたから、自分が思ったようにやってきました。ですから、妻にもやりたいことがあるなら、させてあげたいというのが私の考えです。それに、お互いに協力し合って暮らしていったほうが幸せですよ」。

照子さんは、当時の正男さんについて振り返ります。

「夫は昔からいろんな人のいろんな意見に耳を傾ける人でした。自治会を立ち上げたとき、事務局を担当していましたが、男だけが意見を言うのはおかしいと、副会長には率先して女性を推薦したりしていました。男性も女性もいろんな考えがあつていいと日ごろから言っていました」。

正男さんの優しさは、誰よりも照子さんに注がれます。

「本当に優しい人で、いつも私のことを気にかけてくれます。昔は、私の機嫌が悪いと感じると、大好物のお寿司を買ってきてくれたりしたものです。現在の夫の趣味は、毎日のウォーキングですが、今でも月に一度、ケーキを

おみやげに買ってきてくれるんです」と、二人は顔を見合わせてにつこり。

正男さんと照子さんは、今では息子さん夫婦と同居していて、とても幸せです。

照子さんは「息子が優しい人間に育ってくれて、いい人にめぐり会って、同居で仲良く暮らしているのも、夫の人柄のおかげなのだろうと、感謝しています」。

正男さんは、そんな照子さんに「私たちはよい出会いに恵まれただけで、何も特別なことはありませんよ」と照れながらほえんでいました。

家族が仲良く暮らしていくための秘

男女共同 参画社会 づくり と、町の取り組み



「男性だから」「女性だから」と、家庭や社会で役割が決めつけられたり、やりたくてもできないことがあったら、あなたはどう感じますか。男性も女性もお互いのちがいを認め、理解し合って、思いやりをもって暮らしていくことで、互いに幸せな時間が過ごせるのではないのでしょうか。男女が共にその能力や可能性を存分に発揮できる社会を目指して、町や企業、そしてみなさん一人ひとりが行う取り組みが「男女共同参画社会づくり」です。

町は、この取り組みを進めるため、推薦のあった中から、「いきいきと助け合う夫婦の模範」となる夫婦をナイス・パートナーとして、いきいきと輝く個人をナイス・パーソン、家族をナイス・ファミリーとして顕彰し紹介しています。

訣を聞くと、正男さんは「人は、財産がいくらあっても幸せとは限らないものです。大切なのは、身近な人とのつきあいで、家族と言ってもちがう人間ですから、お互いの考えや、やり方を尊重しなければなりません。何事もお互いがあつてのことですから」と穏やかに話してくれました。

そんなお二人、きつと今日も、正男さんは、日課にしているウォーキングに出かけながら「今日はケーキを買って帰ろうか、どうしようか」と考え、照子さんは、自宅で正男さんに似合う柄はどんなものかと考えながら、編み物を編んでいることでしょう。